

後記

根岸毅先生は、明年三月をもって本塾大学法学部を定年退職される。一九六五年四月に法学部助手に就任されて以来四〇年もの長い間、民主主義論や政治学方法論を中心とするご研究と、それらに関心を持つ学生の教育、『法学研究』編集委員長を中心とする学内行政に携わってこられた。こうした先生の学恩に感謝する法学部の専任教員と他大学で活躍中の研究者の執筆による論文集を刊行することができたことは、ひとえに関係する皆様のご協力の賜物である。

なお、この記念論文集では、根岸先生のご意向もあり次のような構成をとることにした。第一部は、冒頭に根岸先生の論文を置き、これと関連づけて書かれた論文を集めている。第二部は、従来通り執筆者が任意に論題を選んで書く自由投稿の部としている。また、論文の配列もこうした方針に基づくものとなっている。

執筆者には、政治学の研究者だけでなく法律学科の専任教員も多く含まれている。これは、先生の政治学が、装置としての国家のあり方や問題解決ルールとしての法のあり方を研究対象にしてきたためであろう。根岸先生は、政治

学とは国家をめぐる生じる諸問題を解決する学問であり、そうした問題解決に当たっては、「進歩」と「やり直し（試行錯誤）の機会」を最大限保障する民主主義によるべきであると主張した。この主張は、先生の助手修了論文である「民主的官僚の概念」以来、今日の「民主主義の論理と価値」に至るまで一貫している。先生はまた、「政治学者は、国家の問題について、専門外の学者や素人にもわかるように話ができるようでないといけない」と言われたが、まさにご自身でもそのことを実践されてきた。主要業績リストの一つひとつの「作品」に要旨を一言ずつ添えられているのもその現れであろう。

これからもご健康に留意されて研究を進められ、われわれ後輩に知的刺激を与え続けてくださるよう、切に願う次第である。

二〇〇四年十二月

法学部教授 小林良彰

法学部教授 大石 裕

法学部教授 大山耕輔